

令和3・4年度 長崎県教育委員会 長崎市教育委員会指定

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業

研究紀要

【研究主題】

外海を愛し、未来を創造する生徒の育成

～学校茶園活動を通して～



令和4年12月8日(木)

長崎市立外海中学校

目次

あいさつ

I	研究の概要	
1	研究主題	1
2	外海の概況	1
3	生徒の実態	1
4	研究主題設定の理由	2
5	研究の目的・方向性	2
6	研究仮説	2
7	研究組織	3
8	研究構想図	4
9	研究の経過及び計画	5
10	総合的な学習の時間における起業体験学習	6
II	研究の実際	
1	各部の取組	
(1)	起業体験学習運営部	8
(2)	授業改善研究部	17
2	地域との関わり・連携・交流	19
III	成果と課題	20

研究同人

あいさつ

本日は、本校の研究発表会に御参加いただき、また、平素より本校の教育に御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。本研究は、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な活動場面における予定変更を余儀なくされましたが、生徒を中心とした実践的な研究を常に心がけました。

本年度の研究は、「外海を愛し、未来を創造する生徒の育成～学校茶園活動を通して～」を研究主題とする2年次に当たります。地域ぐるみでふるさとの課題解決を目指した探究的な学習に取り組む体制整備を行うことで、ふるさとを活性化する職業体験学習を自立的・継続的に行うことができるようにする。このことにより、「ふるさとを担う実践力」を育むことを目指して、研究・実践を重ねて参りました。

具体的には、ふるさと外海の魅力発見、外海中茶の品質向上、地域への貢献を経営方針として生徒による茶園カンパニー『外海茶屋』を起業し、学校と地域や保護者協働での茶摘み、起業説明会・試飲会・新茶販売会などを実施するとともに、ふるさと外海の魅力発見とPR、外海で生きる自分や外海の未来などについても学習を深めました。

本紀要は、これまでの生徒たちのチャレンジと成果と今後の課題を取りまとめたものです。

本日は、人数は少なくとも、チャレンジ精神に溢れ、生き生きとした生徒たちの姿を御覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、この2年間、本校の研究について御指導いただきました長崎県教育委員会及び長崎市教育委員会の先生方、本校の取組について御支援いただきました地域や保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。また、今後の研究をより実りあるものにするために、参加者の皆様からもぜひ御示唆をいただきますようお願いいたします。

長崎市立外海中学校

校長 濱端 法長

I 研究の概要

1 研究主題

外海を愛し、未来を創造する生徒の育成 ～学校茶園活動を通して～

2 外海の概況

外海は、海に面し、町は全体的に西向きの丘陵地となっている自然豊かな美しい町である。サンセットロードと呼ばれる国道をツーリングする人も多く、美しい夕陽が見られるスポットとしても有名である。また、歴史ある町としても知られている。潜伏キリシタンの時代、出津集落は佐賀藩に、大野集落は大村藩に属していたことによる人々の生活の違いやド・ロ神父との関わりなど興味深い歴史が詰まっている。さらに、外海は古くからゆうこう（果物）やシバヤギの産地としても知られている。

外海は、出津、黒崎、神浦の3つの地区から成り、以前は3つの小学校と2つの中学校があった。平成27年4月に神浦中学校が黒崎中学校に統合され、平成28年4月に神浦小学校が黒崎東小学校に統合された。黒崎東小学校は、平成29年4月に外海黒崎小学校と改称した。黒崎中学校は、平成31年4月に外海中学校と改称し、校舎を出津小学校跡地に新設した。昭和60年には、黒崎中学校と神浦中学校を合わせて100名以上いた生徒も減少の一途をたどり、現在、外海中学校の生徒数は28名である。

外海も県内の他地域と同様、少子高齢化や人口減少の問題を抱えている。自己の進路実現のため、大学進学や就職を機にふるさとを離れる若者が多く、地域の担い手不足が問題となっている。

3 生徒の実態

本校の生徒は、明るく素朴で、日々の学習や学校行事に一生懸命取り組んでいる。生徒数が少ないため、茶園活動など様々な行事に全校で取り組むことが多く、他学年との人間関係も良好である。祭りや地区のイベントなど地域行事への参加も積極的で、ふるさとへの愛着が感じられる。しかし、全校生徒を対象に、自身や外海の未来についてのアンケートを実施したところ、「将来、どこで生活したいと思いますか。」に対し、外海4%、長崎市内23%、長崎県内27%、長崎県外46%であった。長崎県を離れたい主な理由としては、「働きたい職業が県外にある。」「夢をかなえるため。」「好きなことをしたい。」であり、都心部への憧れを抱いている生徒も多い。一方、外海や長崎市内で生活したい理由は、「外海出身の親のように、ここで暮らし、工場をつくりたい。」「長崎にはたくさんの魅力がある。長崎が好きだ。」「長崎市はもっとよくなる。」であった。この結果から、キャリア教育を通してのキャリアプランニング能力の育成が課題だと考えられる。また、ふるさとの課題と対峙し、解決策を考える経験を積むことも重要だと思われる。

4 研究主題設定の理由

生徒の実態からみた課題と本校の特色や地域の特性を踏まえ、ふるさとの新たな魅力を創出する起業体験学習を通して、地域との関わりを再構築しながら、協働的に学ぶ機会を設定することとした。学校茶園活動を継続していく上での課題を地域とともに解決していくことで、ふるさとへの愛着が深まり、主体的にふるさとの未来を担おうとする態度が育成できるものと考え、本研究主題を設定した。

さらに、本研究の充実を図ることで、学校教育目標「たくましく しなやかに あしたに拓く生徒の育成」に迫りたい。

5 研究の目的・方向性

(1) 目的

「ふるさとを担う実践力」の育成

地域ぐるみでふるさとの課題解決を目指した探究的な学習に取り組む体制整備を行うことで、ふるさとを活性化する職業体験学習を自立的・継続的に行うことができるようにする。

これにより、以下に示す「ふるさとを担う実践力」を育む。

- ① ふるさとを愛し、誇りに思う心情
- ② チャレンジ精神、創造力、探究心等（起業家精神）
- ③ 情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等（起業家資質・能力）

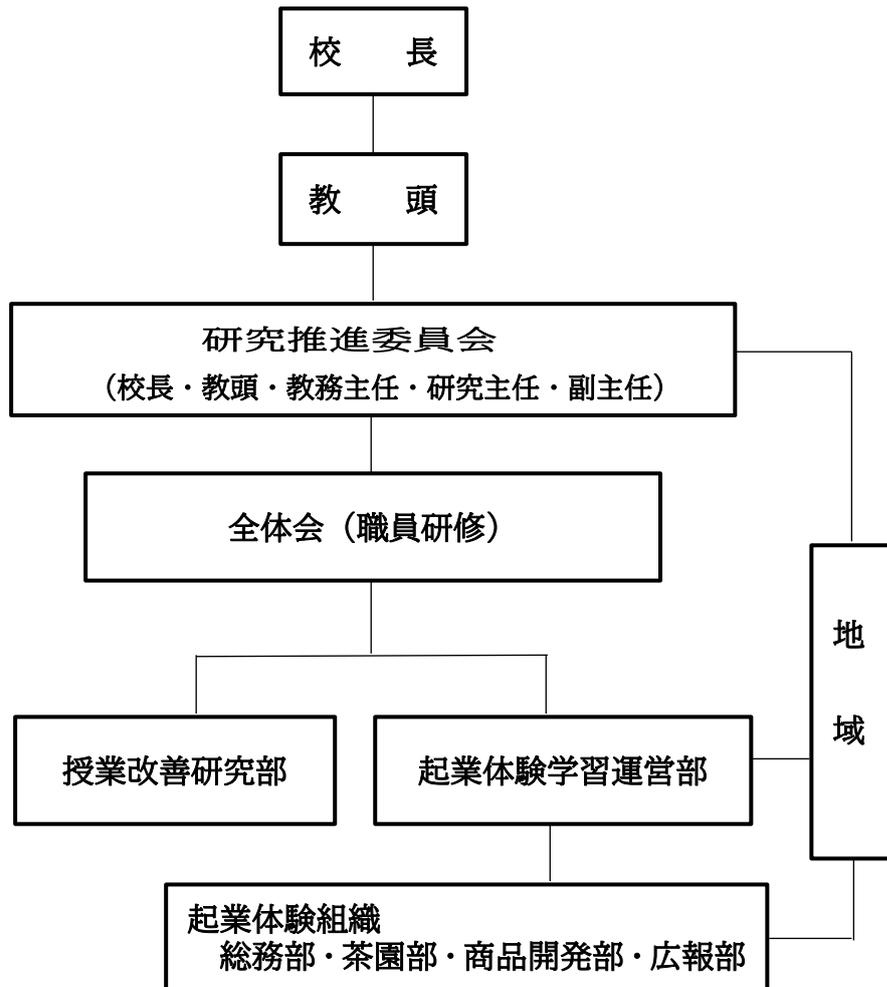
(2) 方向性

令和3年7月に全校生徒に実施したキャリア教育に関するアンケート結果（※別紙）から、「ふるさとを担う実践力」のうち、課題に向かう「探究心」に乏しい状況が分かった。「仲間と協力して課題を解決することができるようになった。」「新しいことに挑戦してみようという気持ちが高まった。」という質問に「あてはまる」と回答した生徒の割合が低かった。また、「やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。」という質問についても同様の結果となった。そこで、生徒たちが探究心を持って主体的に企画・運営ができるような『外海茶屋』プロジェクトを研究の方向性の中心として位置付けた。

6 研究仮説

起業体験学習を通して、茶園運営のために、茶畑の維持・管理の仕方や茶葉の販売についての探究的な取組を、地域と協働して行うことで、ふるさとを愛し、誇りに思う心情を育成できるであろう。また、外海のPR活動や魅力を伝える商品開発を行ったり、地域の課題の解決策を考えたりすることで、外海の未来を創造しようとする思いを育成できるであろう。

7 研究組織



◎地域との連携

(1) 茶心会 (学校運営会議)

平成28年度に校長、教頭、茶園担当職員、育友会役員、自治会長等の地域の方々を構成員とし発足した。主な目的としては、学校茶園の維持・管理や茶摘み、肥料散布等の茶園活動への協力である。1年に3回の会合を開き、よりよい茶園活動を目指した意見交換や地域の方々からの助言をいただいている。現在、育友会の運営について抜本的に見直しており、育友会と茶心会を一体化することも検討している。

(2) 外海公民館

起業体験学習を始めるにあたり、公民館に勤務している外海出身である本校初代校長の方をアドバイザーとして、生徒への助言をいただいた。

(3) 茶園農家

東彼杵の茶園農家の方の協力により、本校の茶園活動の改善や製茶作業を行うことができ、大変お世話になっている。

(4) 外海地域センター

キャリア教育推進事業において連携を図り、起業体験学習を支援していただいている。令和3年度「NAGASAKI よかところ！発表会」では、リモート参加により本校の活動に対する質問や感想をいただいた。本校の茶摘みや試飲会の案内ポスターも毎年、配付している。

8 研究構想図



9 研究の経過及び計画

月	日	主な経過 及び 主な計画	
令和3年度			
4	16	第1回ふるさとの新たな魅力創出会議（県庁）	
7	9	研究概要・計画の説明（校内研修）	
9	21	起業体験学習開始	
11	13	起業説明会（友興祭にて）	県教育委員会指導主事1名 市教育委員会指導主事1名
11	19	中間指導（研究経過報告）	県教育委員会指導主事1名 市教育委員会指導主事1名
11	26	先進校視察（佐世保市立世知原中学校）	
12	9	先進校視察（雲仙市立小浜中学校）	
2	4	「NAGASAKI よかところ！発表会」 生徒5名参加（リモート開催）	
令和4年度			
4	12	令和3年度の研究概要・取組の説明（校内研修）	
4	18	第1回起業体験学習（昨年度の取組・今年度の計画の説明）	
4	22	ふるさとの新たな魅力創出会議（リモート）	
5	28	外海中茶試飲会・販売（起業体験学習）	
9	12	外部講師との交流会（茶園の維持・管理）	
9	21	起業体験学習（外海の風景カレンダー作成）	県教育委員会指導主事1名 市教育委員会主任指導主事1名
10	31	中間指導 2年社会科研究授業	県教育委員会指導主事1名 市教育委員会主任指導主事1名
11	12	起業体験学習事業報告会（友興祭にて）	
12	8	キャリア教育実践事業研究発表会	
2	9	「NAGASAKI よかところ！発表会」	



10 総合的な学習の時間における起業体験学習

(1) 令和3年度 総合的な学習の時間における起業体験学習

計24時間

(『外海茶屋』プロジェクト・「茶園活動」の取組)

月	日	曜日	時数	学習内容	備考
4	30	金	6	茶摘み	
5	21	金	1	新茶袋詰め作業	
9	21	火	1	オリエンテーション(概要説明)・各部の活動	
9	29	水	1	起業説明会に向けての準備①・各部の活動	
10	6	水	1	起業説明会に向けての準備②・各部の活動	
10	12	火	1	起業説明会に向けての準備③・各部の活動	
10	19	火	1	起業説明会に向けての準備④・各部の活動	
10	27	水	1	起業説明会に向けての準備⑤・各部の活動	
11	2	火	1	起業説明会に向けての準備⑥・各部の活動	
11	5	金	4	茶園肥料散布	
11	8	月	2	起業説明会リハーサル	
11	13	土	(5)	友興祭(起業説明会)	行事にて
3	1	火	1	活動の振り返り・次年度の活動(外海茶屋プロジェクト)について	
3	8	火	3	茶園肥料散布(1・2年生)	



(2) 令和4年度 総合的な学習の時間における起業体験学習

計53時間

(『外海茶屋』プロジェクト・「茶園活動」の取組)

月	日	曜日	時数	学習内容	備考
4	18	月	1	オリエンテーション・各部の活動	
4	25	月	1	試飲会準備①・各部の活動	
4	26	火	1	茶摘み事前準備	
4	28	木	6	茶摘み	
5	9	月	1	試飲会準備②・各部の活動	
5	16	月	1	試飲会準備③・各部の活動	
5	18	水	2	新茶袋詰め作業	
5	20	金	1	試飲会準備④・各部の活動	
5	24	火	1	試飲会準備⑤・各部の活動	
5	25	水	1	試飲会準備⑥・各部の活動	
5	27	金	2	試飲会会場設営・準備・リハーサル	
5	28	土	3	外海中新茶試飲会	
6	21	火	1	試飲会反省・新プロジェクト始動	
7	1	金	1	各部の活動(広報部:地域の方へのインタビュー)	
7	7	木	1	自分と外海の未来・外海のいいところと課題	
7	15	金	1	外海茶屋カレンダーに載せる写真のプレゼン1	
9	5	月	1	2学期の活動について	
9	12	月	(1)	東彼杵茶園農家の方との交流	学活にて
9	21	水	1	外海茶屋カレンダーに載せる写真のプレゼン2	
9	29	木	1	外海茶屋カレンダーに載せる写真のプレゼン3	
10	4	火	1	友興祭での起業体験学習報告会に向けて①	
10	12	水	1	友興祭での起業体験学習報告会に向けて②	
10	14	金	1	お茶の淹れ方教室	
10	18	火	1	友興祭での起業体験学習報告会に向けて③	
10	26	水	1	友興祭での起業体験学習報告会に向けて④	
10	31	月	1	友興祭での起業体験学習報告会に向けて⑤	
11	2	水	4	茶園肥料散布	
11	4	金	2	起業体験学習(外海茶屋事業)報告会リハーサル	
11	12	土	(4)	友興祭(文化祭)にて起業体験学習報告	行事にて
11	15	火	1	研究発表会に向けて①	
11	17	木	1	研究発表会に向けて②	
11	18	金	1	研究発表会に向けて③	
11	24	木	1	研究発表会に向けて④	
11	29	火	1	研究発表会に向けて⑤	
12	2	金	1	研究発表会に向けて⑥	
12	5	月	2	研究発表会会場設営	
12	6	火	2	研究発表会発表練習・掲示物設置等	
12	7	水	2	研究発表会リハーサル・準備等	
12	8	木	1	キャリア教育実践事業研究発表会	

II 研究の実際

1 各部の取組

(1) 起業体験学習運営部

○茶園カンパニー『外海茶屋』の取組

令和3年度

① 起業の経緯と会社名

ふるさとを担い、ふるさとの新たな魅力を創出するためには、古くから外海にあるものから学ぶことが重要だと考えた。外海中学校では、1934年から続く茶園活動を行っている。地域の課題を解決するための探究的な取組につなげるためにも、この茶園を生かした職業体験学習プログラムを開発し、実践することにした。

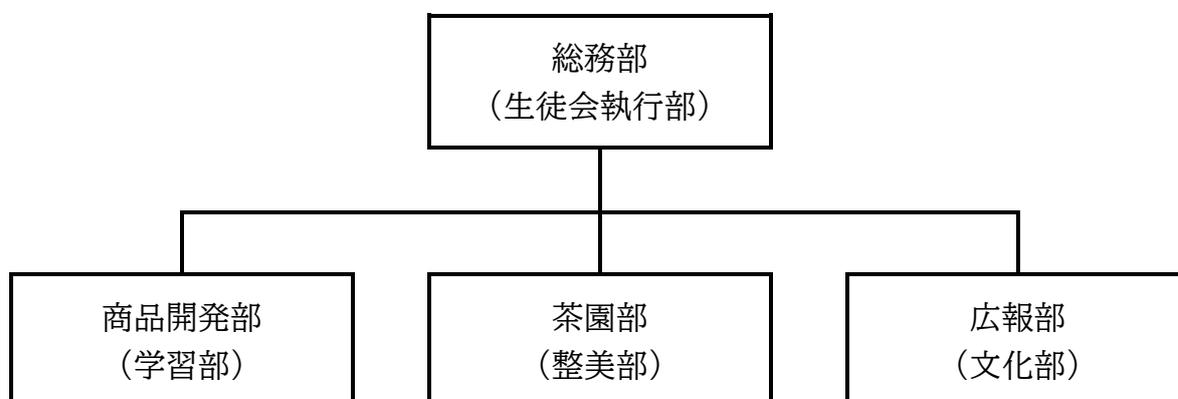
外海中学校の特色である茶園活動を充実させ、継続していくために会社設立を計画し、社名を茶園カンパニー『外海茶屋』とした。そのため当初は、茶木の品質改良とおいしいお茶作りを目指すことを第一の目的としていた。しかし、地域ぐるみで外海中学校の茶園活動を行ったり、ふるさとの課題解決を目指したりするには、外海の魅力を発見しPRすることも大切であると考え、茶園活動と外海のPR活動を両輪として運営していく会社を目指すことにした。

茶園カンパニーとしては、茶摘み・製茶・販売を自社で行うことを、未来の理想とし『外海茶屋』イメージ図を描いた。



『外海茶屋』イメージ図

② 会社組織



③ 起業準備

令和3年9月21日にオリエンテーションを行い、研究テーマ、会社の設立、3つの部署の活動内容などを説明し、起業準備に入った。総合的な学習の時間を使って、オリエンテーションと起業説明会のリハーサルを行った。会社を設立するにあたり、茶園カンパニー『外海茶屋』のイメージ図も作成した。

④ 起業説明会

令和3年11月13日、外海中学校文化祭（友興祭）で起業説明会を実施した。外海中学校の茶園の歴史や現在の茶園活動を紹介したあと、茶木の老朽化に伴う新芽の少なさやお茶の苦みなどの問題点を説明した。それらの問題点を解決し、おいしいお茶作りと外海のよさをPRするために会社を設立することと、会社運営のために協力金（寄付金）が必要なことを説明した。商品開発部、茶園部、広報部の活動内容を報告し、1口500円の協力金を募ったところ49口の寄付をいただくことができ、地域の方々の協力のもと茶園カンパニー『外海茶屋』の運営を開始した。

⑤ 各部の活動

茶園カンパニー『外海茶屋』の活動を、「外海茶屋プロジェクト」と名付けた。令和3年度の各部の活動内容は以下のとおりである。

商品開発部は、茶葉を利用したお茶製品の紹介や、社員が着用するTシャツのデザイン開発、外海の風景を写したポストカード作成など外海茶屋ブランドの商品化と運営資金をもとに利益を増やす方策の検討を行った。

茶園部では、茶木の品質改良と良質な茶葉作りを目指し、その方策を調査し、検討を重ねた。その中で、茶園農家の方が推奨する肥料の購入を決定し、11月の肥料散布では新たな肥料を使用した。

広報部では、茶園の歴史を調べてパネルにまとめたり、『外海茶屋』のロゴマークを作ったりした。

⑥ 協力金について

起業説明会后、茶園カンパニー『外海茶屋』の設立のために協力金を募ったことが地域の方へも知れ渡り、学校への問い合わせが相次いだ。茶心会での議題にも上がり、自治会の回覧板にて寄付の方法などをお知らせした。2月から4月まで、741口の協力金が集まった。

会社を設立したことで、これまで感じる事のなかった外海中学校の茶園活動に対する大きな期待と『外海茶屋』に対する温かい支援を知ることができた。

令和4年度

① 起業体験学習の過程（外海茶屋プロジェクトと茶園活動）

<総合：4月18日>：オリエンテーション

令和4年度、第1回外海茶屋プロジェクト。茶園カンパニー『外海茶屋』への1年生の入社式を行い、昨年度の取組の振り返りや今年度の計画などの説明を行った。会社運営のための協力金の使い方や地域貢献の方法を明確にしたり、社員として自己の役割を考えたりするために、『外海茶屋』は何をする会社なのかを改めて整理し、企業理念を作り上げた。



<総合：4月28日>：茶摘み

天候不順のため4月26日から延期になったが、生徒27名と職員、育友会、茶心会の方で、茶摘みを実施した。コロナウイルス感染症対策のため、地域の方の参加は中止した。生徒数の減少と地域の方の不参加、及び茶木の品質改良の検証のため新芽のみを摘んだことにより、茶葉の量は38kgと前年度の50kgを下回った。



<総合：5月18日>：新茶袋詰め作業

4月28日の茶摘み後、製茶された茶葉の袋詰め作業を行った。50g用と100g用の袋に茶葉を詰める作業、シーラーで封をする作業、シールを貼る作業を分担し、社員全員で行った。試飲会での販売用に、50gの新茶を102袋、100gの粉茶を6袋準備することできた。



<総合：4月25日～5月25日>：外海中茶試飲会準備

4月25日から6時間計画で、5月28日（土）開催の外海中茶試飲会の準備を行った。例年、「道の駅」で茶葉の販売を行っていたが、今年度、初めて外海中学校にて開催した。そのため、茶葉の販売以外にも、各部署で新たな取組を試みることができた。茶園部は、試飲会で提供するお茶の淹れ方を研究し、最適な方法を見つけることができた。広報部は、来場者に配付する外海マップを作成した。商品開発部は、外海のPR商品として、ポストカードとブックマークを作製した。また、外海や外海茶屋をイメージしたTシャツのデザインも考えた。外海のPRでは、特産物や商店の紹介を考える中で、外海ベーカリーの出店販売を依頼した。



<総合：5月28日>：外海中茶試飲会

5月28日（土）に、外海中茶の試飲会と新茶販売を、外海中学校の体育館で行った。学校で開催することで、『外海茶屋』の事業説明会も実施することができ、協力金の使用計画や各部署の活動報告を行うことができた。試飲会では、来場者に対し、茶園部が淹れ方を研究したお茶を提供し、試飲後のアンケート調査に協力していただいた。広報部は、外海のPR活動を行い、来場者に2種類の外海マップを配付した。商品開発部は、文化祭で販売予定の外海のPR用Tシャツのデザインを発表し、感想や購入希望等のアンケート調査を行った。外海のPR用に販売したポストカードやブックマークも好評で、ブックマークは111枚を完売し、茶園カンパニー『外海茶屋』として初めて利益を得ることができた。地域とのタイアップとして出店販売した外海ベーカリーのパンも早々に完売し、追加販売を行った。茶葉の販売では、外海中茶の新茶102袋、あら茶15袋、粉茶6袋、そのぎ茶の粉茶90袋を完売した。



<総合：7月7日>：自分と外海の未来・外海のいいところ・外海の課題と解決策

ふるさとで新たな魅力を創出するにあたり、改めて自分とふるさと外海の係わりについて考える時間を設けた。まずは、「自分の将来や夢」について考え、次に「外海の未来」を予想した。外海の未来について考える場合、今の外海の姿が基になっていると思われることから、「外海のいいところ」と「外海の課題」についても考えた。その後、グループ討議を行い、「外海のいいところ」と「外海の課題と解決策」を発表することで、ふるさとへの思いを共有することができた。



<総合：7月15日>：外海風景カレンダープレゼンテーション1

7月7日の授業を受け、ふるさと外海の魅力は、海や山や夕日などのきれいな景色や、歴史ある建物があることを再確認することができた。それらを写真に残すことで外海のPRができるのではないかと考え、「未来に残したい外海風景カレンダー」の作成にとりかかった。放課後や休日を利用し、社員それぞれが、自分の好きな風景やおすすめの場所、あまり知られていないお気に入りの場所の写真を撮りに出かけた。その写真とそこを選んだ理由を資料にまとめ、発表会を開催した。



<学活：9月12日>：東彼杵茶園農家の野口さんとの交流会

東彼杵で茶園農家を営む野口さんは、外海中学校が茶園活動を行うにあたり、なくてはならない存在である。製茶作業でもお世話になっている野口さんに感謝の意を表すとともに、アドバイスをいただいた茶園活動の成果の報告のため交流会を行った。交流会の企画・運営は茶園部が担当し、試飲会で行ったお茶のアンケートの好結果の紹介や、質問に対する返答とさらなるアドバイスをいただいた。野口さんと対面して話したのは初めてであったため、全社員にとって大変有意義な時間となった。そして、茶園活動を行うためには、人とのつながりが大切であることを学ぶ良い機会にすることができた。



<総合：9月21日>：外海風景カレンダープレゼンテーション2・候補写真の検討

<総合：9月29日>：外海風景カレンダープレゼンテーション3

1学期に行った「未来に残したい外海の風景カレンダー」の続きを2回行い、全社員が「自分が見つけた外海の魅力」を発表することができた。9月21日の発表会は、外部からの参観者がいたこともあり、より一層ふるさと外海を思う気持ちが溢れた発表会となり、カレンダーに載せる写真を選ぶ話し合いにも力が入るなど、生徒の成長が感じられる時間となった。



<総合：10月14日>：お茶の淹れ方教室

茶園の肥料散布を前に、長崎県茶業振興協議会主催の「お茶の淹れ方教室」を実施した。お茶のおいしい淹れ方については、知らないことが多く、新たな知識を身に付けることができた。講師の方々との交流で、お茶についての知識が深まり、茶園カンパニー『外海茶屋』の社員としての自覚を高めるとともに、もてなしの心を学ぶことができた。



<総合：11月2日>：茶園肥料散布

昨年度から使用している肥料「満作2号」を20袋（1袋20kg）購入し、茶園への散布を行った。4月の茶摘みや5月の試飲会で効果を検証することができたことから、今後も使用していく予定である。



② 外海茶屋プロジェクトにおける各部の活動

ア 総務部

生徒会執行部の3名で構成し、生徒会長が社長、生徒会副会長（3年生）が副社長、生徒会副会長（2年生）が専務兼会計を務める。主な仕事内容は、起業説明会や事業報告会等の企画・運営、協力証の作製、会社運営、経営会議の開催、会計、各部署からの企画書や予算請求の審議・承認、外海茶屋プロジェクトの推進などである。上記の3名は、各部署にも所属している。

イ 商品開発部

令和4年度は、外海のPRとなる商品を企画・開発した。試飲会では、ブックマークとポストカードを販売。ブックマークのデザインは生徒たちが撮影した写真を利用して製作した。製作する中で、代金をいただくに見合う商品を手作りすることの大変さを感じたり、実際に購入していただく中で、売れ行きに差があることに気付づかされたりして、商品開発の難しさに直面した。試飲会での売れ行きを反省として、使用する写真やデザイン、文字の配置等を試行錯誤し、クリアファイルやポストカードの作成を行った。また、商品は簡単に準備できるものではなく、製作期間が足りなかったり、製作に必要なツールがそろわずに企画が通らなかったりと、困難な状況が多々あったが、目的・デザイン・費用・期間等、総合的に考えた商品開発を行うことができた。



ウ 茶園部

茶園部では茶園に関する活動の運営と、茶葉（茶木）の品質を高めるための取組を行っている。生徒たちは積極的に意見やアイデアを出し、主体的に取り組むことができている。茶摘みでは、茶葉の摘み方を新入生にもわかりやすく説明するためにはどうしたらよいか準備を工夫した。試飲会に向けては、製茶した茶葉をどのように淹れたら最もおいしいか検証を重ねた。自分たちが取り組んだ成果に自信を持ち、お客様にお茶を出すことができた。品質向上のために、部長を中心に茶園農家の野口さんへのインタビューを行い、具体的な指導を仰いだ。その後、野口さんを学校にお招きして交流会を実施し、さらに土壌の管理や、茶木の生育に関わる専門的なアドバイスをいただいた。

エ 広報部

外海の魅力を再発見し、広くPRすることを目的に活動した。令和4年度は、外海の特産物に焦点をあて、シバヤギ飼育、かんころ餅作り、ゆうこう栽培、クレソン栽培、棚田味噌作り、巻ようかん作り、漁業に関わる地域の方へのインタビューを行った。インタビュー内容は、新聞にまとめて掲示したり、事業報告会で発表したりするなどして、外海の魅力を発信した。また、『外海茶屋』の事業を知らせる広報誌を作成した。

③ 経営会議

令和4年度より定期的に開催し、会社経営の中核的役割を担っている。構成メンバーは、社長、副会長、専務兼会計及び各部の部長である。経営会議の目的は、各部署の進捗状況の確認、企画会議と各部署への仕事依頼など、外海茶屋プロジェクトの推進と計画の見直しである。4月には、茶園カンパニー『外海茶屋』の活動方針の再確認のため、総務部で経営理念を明文化し、社員の思いを企業理念として5つにまとめた。

茶園カンパニー『外海茶屋』の「企業理念」

- ① 外海茶屋は「地域の方々と協力して茶園活動を行い、学校茶園のお茶をおいしくするための」会社です。
- ② 外海茶屋は「外海の魅力を発見・発信し、外海の未来を創り出す」会社です。
- ③ 外海茶屋は「愛する外海よさや産業をより多くの人に伝え、ふるさとに貢献する」会社です。
- ④ 外海茶屋は「茶園活動を通して、自然環境の維持や改善に努める」会社です。
- ⑤ 外海茶屋は「外海をもっと明るく、地域の人を笑顔にする」会社です。

夏休みには、外海茶屋ののぼり作成を企画し、全社員がデザイン案を提出し、その中から2作品を採用した。また、7月には、全社員で「外海の課題と解決策」や「未来に残したい外海の風景」の検討会を実施した。その後、商品開発部と協同でカレンダー作成にも取り組んだ。

(2) 授業改善研究部

学校茶園活動を通して「ふるさとを担う実践力」を育み、本研究主題に迫るためには、総合的な学習の時間だけでなく、各教科の中でも「ふるさとを担う実践力」を身に付けた生徒の姿を意識しながら指導をしていくことが必要不可欠である。そこで、授業改善研究部を立ち上げ、研究授業や校内研修を行った。

① 教科横断的な取り組み

「ふるさとを担う実践力」を各教科で育てていくにあたり、特に「探究心」に焦点をあて、理科と社会科で研究授業を行った。

[理科]

地質的特徴を多く有する外海地区を題材とし、単元を通した課題設定を行う授業を行った。知りうる情報から疑問をもち、その疑問の解決を課題として学習を進めていく過程を通して探究心を育むことをねらいとした。これまでの起業体験活動を通して、生活基盤である外海地区の魅力についてはよく考えるものの、その魅力をつくり出した大地の変化に起因する規則性や、地質的な特徴を考える機会が初めてであるため、地図アプリや地質図を見比べながら、外海地区のもつ建造物、地質や地形の特徴を明らかにすることを意識して授業を展開した。

(成果と課題)

- ICT 機器を活用したり、対話活動を取り入れたりして、互いの考えを共有しながら、より深く考えることができた。
- 外海地区を題材としたことで、地図だけではなく実際に行ったり、見たりした「もの」や「場所」についても考えを巡らせることができた。また、これまでの総合的な学習の時間で考えてきた「外海の魅力」と関連付けることで、日頃の授業での学びが実生活にもつながることをより意識させることができた。
- △探究心の育成について、教科が担う役割をより意識した授業展開が課題である。

[社会科]

「ふるさとを担う実践力」の育成のための教科横断的な取組として本時を設定した。外海地区の地形図と他地域の地形図や過去の航空写真を比較し読み取る活動から、身近な地域の土地利用の特色や変化を資料を適切に用いて考察することを通して、地域的特色を読み取ることができることをねらいとして実施した。

(成果と課題)

○生徒たちは、主体性を持って授業に取り組み、自分たちが暮らす地域について学ぶことができた。

○地形図やGISを用いて、地理的事象を読み取ることができるようになった。
△事前のアンケートにおいて、資料の活用や読み取りに自信が無いことが分かったので、資料とじっくり向き合っ、社会的事象を見出したいと考えていたが、部分的には読み取りができたものの、深い部分までは読み取ることができなかった。

△共通点や相違点を見出すための資料をしっかりと選定する必要がある。

(理科と社会科の指導案については、別冊資料に掲載。)

② 主体的に学習に取り組む態度に関する校内研修

茶園活動では、茶園の維持や企業運営に係る様々な困難な状況をいかに解決していくかという場面が多く存在する。教師から意図的に与えられた課題をこなすのではなく、地域の方々からいただいた要望や、販売・PR 活動を通して見えてきた課題について、自分たちで状況を判断し、「課題や困難の原因は何か」「必要な対策・活動は何か」「今の自分たちができることは何か」「地域の人々が求めるものは何か」等を繰り返し考える「粘り強さ」や「調整力」を必要とする。

これらを育むために、各教科でどのような指導が必要とされるのか、「粘り強さ」と「自己調整」の2つの側面をどのように見取り評価するのかの共通理解を図るため、「主体的に学習に取り組む態度」についての校内研修を行った。

現在、各教科で振り返りシート等を活用したり、課題解決学習を取り入れたりしながら、指導・評価を継続している。各教科での生徒の姿を、互いの教科で共有しながら、生徒への指導の工夫を考えていくことが今後の課題である。

2 地域との関わり・連携・交流

(1) 史跡巡り

外海ボランティアガイド協会会長の松川氏に案内していただきながら史跡を巡る1年生対象のふるさと学習。「長崎の宝」発見・発信学習推進事業を利用して行った潜伏キリシタンの歴史や外海地区の史跡の説明を受け、ふるさとのことをより深く理解し、外海のよさを発信する取組につなげる。

(2) 愛の年賀状

毎年12月に、外海地区の一人暮らしの高齢者の方に生徒が年賀状を書き、郵送する取組。年賀状が届いた方から大変喜ばれ、送った生徒に年賀状が多数送られてくる。

(3) 茶園活動

毎年4月末の茶摘み、11月の肥料散布（令和3年度からは3月にも実施）を、生徒とともに保護者、茶心会の方、地域の方が行う。茶摘みと肥料散布の前には、育友会と茶心会で除草作業を実施している。

(4) 文化祭（友興祭）

毎年10月末か11月初めに、文化祭を実施。いくつかのグループに分かれ楽器演奏や劇など表現活動に取り組んだ成果を発表する。新型コロナウイルス感染症対策のため現在は行っていないが、令和元年度までは演奏班が文化祭前に高齢者施設を訪問し、楽器演奏を披露し喜ばれていた。令和3年度からは、地域の方に向け起業体験学習の説明会も実施。

(5) 外海文化市への参加

毎年、文化の日に出津集落一帯で「外海文化市」が開催されている。地域の方が実行委員会を組織し、外海中学校近隣での開催のため、本校生徒も参加している。今年度は、出津地区ふれあいセンターにて、外海中学校校歌を作詞・作曲いただいた上奥まいこ氏と伊藤心太郎氏のお二人とペペ伊藤氏によるコンサートに本校生徒も参加して校歌を披露した。

(6) シバヤギによる茶園の除草

茶園の除草作業を行う前などに、茶心会のメンバーの方の御厚意で、シバヤギを放牧していただいている。雑草を食べるため、除草作業の軽減につながっている。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 茶園カンパニー設立に対する地域の方からの多大なる支援や期待の大きさを知ることができた。そのことで、生徒が自覚と責任をもって会社運営を行う職業体験学習を実施することができた。
- (2) 教師側から意図的に課題を与えずとも、生徒同士で活動を進めていく中で、新たな課題に直面し、どう解決するかを互いに話し合い、行動する場面が多く見られるなど、「ふるさとを担う実践力」を育むことにつなげることができた。
- (3) ふるさと外海を題材にした授業を行ったことで、生徒たちが、日ごろの学習が自分たちの生活につながっていくことを実感することができた。
- (4) 日常生活の場である地域であっても知らないことが沢山あり、活動を通して多くの新たな発見があったことから、ふるさとを大切にし、誇りに思う気持ちの高まりを感じることもできた。
- (5) 仲間と協力して課題を解決することができるようになった生徒の割合が増加していることから、主体的に行動し、課題解決に取り組むことができたといえる。(※別紙アンケート結果)
- (6) 新しいことに挑戦してみようとする生徒の割合が増加しており、探究心を持って取り組む姿勢が向上したと考えられる。(※別紙アンケート結果)

2 課題

- (1) 茶園活動の充実・外海茶屋の運営のために、今後も職業（起業）体験学習を継続したいが、全校生徒での取組になるため、その内容や時数配分等プログラムのさらなる開発や改良が必要である。
- (2) 地域ぐるみでふるさとの魅力創出や課題解決を継続していく体制づくりが課題である。
- (3) 生徒数が非常に少ないため、一人ひとりが抱える仕事が多い。丁寧に活動を進めるほど活動量が増えたので、効果を検証し、精選していく必要がある。

研究同人

年度	令和3年度	令和4年度
校長	楠本 千穂	濱端 法長
教頭	樋口 和満	樋口 和満
教諭	西川 誠 飯塚 一生 坂中美由紀 山田圭一郎 佐藤 大輔 永松 隆男 小野なるみ	飯塚 一生 古賀 玲子 山田圭一郎 佐藤 大輔 中村 洋介 川内 香織 小野なるみ
養護教諭	富永 弓月	富永 弓月
事務主査	吉田 弘補	吉田 弘補
事務職員	宮地 昌江	
庁務員	中尾マユミ	中尾マユミ
非常勤講師 教諭（兼務）	原口 洋子 石橋麻衣子	原口 洋子 田中 優花
A L T	メイソン・ウォン	メイソン・ウォン
図書館司書	村上 文香	村上 文香
S C	大坪 淑子	一瀬さつき



茶園カンパニー『外海茶屋』

長崎市立 外海中学校